

停電対応マニュアル

日常的な備え		
<p>《安否確認・連絡・情報共有方法の確立》</p> <ul style="list-style-type: none"> 人工呼吸器、在宅酸素療法中の利用者の他、吸引機、電動ベッド、エアマットを使用している利用者、高層マンション上層階在住の利用者（エレベーターが止まると家に閉じ込め状態に生活の継続が厳しくなる者）を抽出し、対応必要者リストを作成しておく。 停電時に電波が障害されることは考えにくいので、電話かSNS、チャット等、どの媒体を優先的に使うのかを確定しておく 利用者安否確認は、誰が中心に何を確認していくのか、停電時に安否確認が必要な利用者数と、その確認に必要なスタッフ数を確認して、必要数を割り振っておく <p>《事業所としての備え》</p> <ul style="list-style-type: none"> 施設内の確認係：プレーカーや電源の確認を行う シガーソケット形のコンセントなど、車のバッテリーに接続して使える機器を揃えておく 経済的余裕があれば発電機を準備しておく 懐中電灯が使えるか、確認し電池などの予備も確認する 冬季や夏季など冷暖房が必要な場合に備えた準備もしておく 電子カルテに記録ができなくなった場合に備えて、複写式の記録を準備しておく <p>《利用者の準備支援》</p> <ul style="list-style-type: none"> 人工呼吸器、在宅酸素療法中の利用者の他、吸引機、電動ベッド、エアマットを使用している利用者については、バッテリーの設置や充電方法、停電時の対応について、本人・家族が理解できるように平時から説明、訓練もしておく。 吸引器が必須な利用者については、手動式の吸引器について説明・導入・練習をしておく。 <p>《地域のリソースとの連携体制構築》</p> <ul style="list-style-type: none"> 人工呼吸器、在宅酸素療法中の利用者は、個別避難支援計画を確認、ご本人・家族、行政（保健所保健師・市役所担当課）、主治医、医療機器メーカー、近隣住民と停電時の対応について、利用者ごとに相談しておく。 停電が長期化した場合、自家発電機を備えた医療機関や福祉機関への受け入れが可能かどうか等含め、地域のリソースの開拓・把握を行政と共に進行。災害時に、ロビーでも、とにかく電源を借りられれば命を繋げられる 電力会社からの情報だけでは、リアルタイムの正しい情報が入らないことがあるため、事前の情報収集方法について行政に確認して詰めておく 端末類の充電を満タンにしておく、モバイルバッテリーなどを準備しておく 		
	計画停電の場合の事前対応	停電時の緊急・初期対応
組織としての対応	<ul style="list-style-type: none"> 事業所の予備バッテリーを充電し満タンにしておく 車のガソリンを全て満タンにしておく 電車が動かない場合に、出勤方法やシフトの調整などを事前に行う 長期化する予定であれば、自家発電機を備えた医療機関や福祉機関への受け入れを打診する 夜間の発生では、暗く危険になるため安全確保の観点から移動は控えるようにする。 →このため、夜にさしかかる場合には早めのアクションを検討する。 →夜間に発生した場合には、夜明けから動けるようアクションの確認をする 	<ul style="list-style-type: none"> どのエリアが停電しているか、見通しはいつまでに復旧しそうか、原因はなにかを把握する バッテリーを省エネモードにする 長期化した場合にはプレーカーを上げ、コンセントを抜いておく（停電から復旧した場合に電化製品へ一斉に電気が流れ、電化製品の故障や電化製品による火災が発生する可能性がある） 火災の原因になるので、火を用いない 夜間の発生では、暗く危険になるため安全確保の観点から移動は控えるようにする。 →このため、夜にさしかかる場合には早めのアクションを検討する。 →夜間に発生した場合には、夜明けから動けるようアクションの確認をする 人工呼吸器利用している方について、保健センターへ無事やトラブルの有無などを報告する
利用者への対応	<ul style="list-style-type: none"> 全利用者への周知を行う 停電地域を確認し、該当地域の対応必要者リストに挙がった利用者については、準備状況の確認と支援を行う HOT利用者の場合は、投与量に応じたポンベの備蓄量を確認し、在宅酸素業者とも協議するよう伝える 季節により、冷暖房器具停止による生命危機リスクがあるため、ケアマネジャーなどと事前に対策を協議する 	<ul style="list-style-type: none"> 停電地域を確認し、該当地域の対応必要者リストに挙がった利用者については、状況の確認と支援を行う 連絡がつかない場合や、対応ができていない利用者については、臨時訪問を検討する。 停電が長期化するような場合には近隣の医療機関への受け入れ調整を検討する。